

鶏 肉 情 勢

項 目			内 容	実 績										
供 給	1. 国内	(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和3年7月下旬実施)によると6月の推計実績は処理羽数60,083千羽(前年比100.0%)・処理重量182.3千トﾝ(同102.6%)となった。前月時点の推計より処理羽数は1.0%下方修正し、処理重量は1.2%上方修正となった。一部の産地では天候不順の影響もあり、大腸菌症などによる育成低下もあったが全体的に安定した生産状況となった。 (2) 本格的な夏の気候となり、各地猛暑が続いているが南九州産地・東北産地ともに安定的な生産状況となっている。暑さの影響でひな段階での飼料摂取が鈍ってしまう等の事象が見込まれるため、秋以降の成長体重に影響が懸念される。			生産状況 単位:千羽、千トン、%									
	2. 輸入	(1) 財務省7月29日公表の貿易統計によると2021年6月の鶏肉(原料肉)の輸入量は4万2,811トﾝで前年同月の実績を約15%下回った。前年実績を下回ったのは約5か月振りで直前の予測では4万4,700トﾝと見込んでいたので約2,000トﾝ予測より減少した。鶏肉輸入品の主な輸入先としてタイがあるがコロナ禍による生産段階や処理場等でのクラスター発生など、感染拡大が今後の輸入量に影響が出ることが予測される。 (2) 鶏肉調整品についてはタイからの輸入量は26.1千トﾝ(96.1%)、中国からの輸入量は13.9千トﾝ(99.2%)となっており、前年を少し割っているがほぼ昨年並みの輸入量となっている。鶏肉調整品の輸入量も減少する見込みであり、唐揚げ等のコンビニ向け鶏肉加工品の供給や輸入原料を使用した冷凍食品の製造にも影響すると考えられる。一部の加工メーカーでは国産原料への代替も検討しているとの声も聞かれる。			※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」									
需 要	1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、令和3年5月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量4,403g(前年比88.3%)、金額6,781円(同91.5%)と、前月同様に前年を下回った。鶏肉は3月から前年を下回っており、5月も数量1,527g(同89%)・金額1,426円(同90.4%)で前年を下回った。また、加工品についても加工肉全般で金額1,605円(同93.8%)と前年を下回っている。本格的な夏に入り、量販店の特売は夏場商材のむね肉・ささみを中心にチラシ掲載が多く見られ、もも肉等の他商品も今後、消費が増加することを期待したい。			鶏肉の消費動向(2人以上の世帯) 単位:グラム、円、%									
	2. 量販・卸	(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和3年6月の食品売上高は全店ベースで前年比100%と前年並みで推移した。一方で生鮮3部門の売上高は全店ベースで前年比99.6%、既存店ベースでも同98.4%と前年を若干、下回った。青果・水産部門は全店ベースでは前年を上回っているが畜産部門の売上高は約1,112億円で全店ベース(同98.5%)、既存店ベース(同97.2%)とも前年を下回った。「前年は保存に優れた畜産品の需要が急増した反動が続いている。特に加工肉や挽肉で前年との反動が大きかった。牛肉は輸入牛の価格が高い状況が続いており、国産牛が比較的好調となった。高単価商品は各量販店で好不調が分かれている。豚肉や鶏肉は相場高の影響を受け伸び悩んだ。ハム・ソーセージなどの加工肉も前年からの反動減がみられる」と報告された。また総菜部門の売上高は全店ベース(同107.6%)、既存店ベース(同105.9%)ともに前年を上回った。「家庭内調理の急伸や通勤客の減少、バラ売りの中止の影響で伸び悩んだが回復傾向が続いている。在宅勤務の増加で中食ニーズが堅調で昼食向けの米飯類や気温の上昇により寿司類や冷麺類、サラダなどの冷惣菜の動きがよい。自宅で調理しにくい商品群である揚げ物が好調に推移した。外食店の時短営業や酒類提供自粛要請もあり、「家飲み」向けのやきとりやつつまみ類も引き続き堅調」と報告があった。			相場(年別・暦年) 単位:円									
在 庫	3. 業務・加工筋	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる令和3年5月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比100.2%の4,407トﾝとなった。うち国内物は同88.3%の3,341トﾝと下回り、輸入物は同173.7%の1,065トﾝと上回った。前月同様に輸入原料を使用した加工品の製造量は多くなっており、先々の原料不足を見込んでの製造かと推測される。			在庫状況(推定) 単位:千トン、%									
	1. 令和3年(2021年6月)	(1) (独)農畜産業振興機構の推計期末在庫では国産34.1千トﾝ(前年比183.9%・前月差+1.3千トﾝ)、輸入品121.7千トﾝ(同80.0%・同▲7.7千トﾝ)と合計で155.8千トﾝ(同91.3%・同▲6.4千トﾝ)となった。7月以降の在庫についても輸入品在庫が減少見込みのため、前年を下回ると推測される。			相場(月別) 単位:円、%									
相 場	2. 見通し	(1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(令和3年7月28日公表)では、6月の出回り量は国産142.5千トﾝ(前年比101%・前月差+1.6千トﾝ)、輸入品52.4千トﾝ(同112.2%・同+5.1千トﾝ)と合計で194.9千トﾝ(同103.8%・同+6.6千トﾝ)となった。7月～8月頃の出回り量も前年並みでの推移が見込まれる。今後タイ等からのむね肉が減少する見込みという話も聞かれるため、輸入在庫は減少傾向になると推測される。国産鶏肉在庫については量販店の販売も減少傾向であることから、各品目(もも肉等)積み増しになるのではないかと推測される。			※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構									
	1. 令和3年7月動向	(1) 令和3年7月の月平均相場は、もも肉600円/kg(前月比▲31円)・むね肉301円/kg(同+5円)正肉合計で901円/2kgと前月比で26円下回るも、前年比では42円上回った。もも肉は月初617円で始まり、月を通じて下げ基調となり、月内最大の下げ幅で▲10円の下げもあり、月末582円と35円安となり、前月同様に下げ基調となっている。むね肉は月初299円で始まり、月内を通して上げ下げを繰り返、300円前後を維持しながら、月末は298円と1円安となったが月平均301円/kgと前年と比較しても高水準で推移している。			※参考資料:総務省統計局HP									
場	2. 見通し	(1) 気象庁発表の向こう1か月の見通しによると、8月の気温も全国的に平年よりかなり高くなるとの予報。本格的な夏の暑さの影響もあり、量販店ではもも肉の販売が鈍化し、学校給食での需要もないため、もも肉相場は下げ基調となるが、やや下げの月平均575円と予測する。むね肉は輸入量の影響、タイにおける鶏肉生産へ影響が出るのではないかととの声も聞かれ、加工筋向けの供給も安定していることから、もち合いの月平均300円と予測する。 (2) 緊急事態宣言の再発動で飲食業界は不安定な状況が続いている。テーブルミートは内食需要に支えられているが鶏肉の家計消費も鈍化していることから、鶏肉生鮮相場についても需給がさらに緩むことも考えられる。			※参考資料:令和3年8月4日 更新 全農チキンフーズ㈱									